



研究校 軽井沢町立軽井沢東部小学校

共同研究者 苫野一徳（熊本大学大学院 准教授）

テーマ

対話から始める学校づくり

異年齢での対話活動をとおして

「自分でつくる経験をしていないと、社会をつくることに繋がらない」5月に全職員で苫野先生のお話を伺いました。「東部小学校の子どもたちも、全校の仲間と相談し合って学校を自分たちの手でつくってほしい」と願い、全校異年齢での対話活動に取り組んでいます。

東部小学校では『まざって あそぼう はなそう』と名づけ、月1回程の対話の時間を設けています。

コロナ禍で他学年との交流が少なかったのですが、ウォーミングアップのゲームを通して気持ちもほぐれ、心地よく対話するためのルールも位置付いてきています。年齢の幅が広くテーマ設定の難しさはありますが、保護者も対話に参加した際には、様々な年齢や立場の人の意見から刺激をもらっている姿もありました。

ホワイトボードを使い意見を可視化したり、Qワード（質問の言葉）を使って質問したりと、グループ毎の工夫も生まれてきました。グループの意見を一つにまとめるというプロセスがあることで、友達の話にじっくりと耳を傾けたり、友達の話につなげて考えたりする姿が多くなりました。みんなが納得いくように折り合いをつけたり新しいアイデアを生み出したりすることを経験できたように思います。

また、表現とコミュニケーションのワークショップに取り組んだときには、言葉での対話だけでなく、表情や動きで友だちを知っていくことができ、対話の根底にある表現に気づくことができました。傍観者がいることは表現する側にとって恥ずかしさに繋がるので、大人も一緒に楽しむことを大切にしました。一緒に活動していると、子どもたちの表現力に驚かされたりおなかの底から一緒に笑えたりし、子どもたちの知らない一面が見られ、子どもたちと仲間になれた気がしました。言語で表現することが苦手な子どもも自己表現したり活躍したりする場になり、大人はその子どもの変化をみとれることが大切なのだと感じています。

私たちはこれまで、私たち大人がどうあったらよいかを悩みながら実践してきました。皆さんと一緒に考えられればと思います。



共同研究者 苫野先生から

学校は、この民主主義社会の最大の土台です。そして民主主義の一番のキモは、多様で異質な人たちが、お互いを認め合い、いかに「対話をとおした合意形成」をしていけるかにあります。

東部小学校の実践は、その土壌を豊かに豊かに耕すものです。たっぷりとした対話の時間を大切にするだけでなく、言葉以前のコミュニケーションにも目を向けた、素晴らしい実践だと思っています。わたし自身が一番学ばせていただくつもりで、子どもたち、先生方と一緒にできるのを楽しみにしています。

～日程～

- ① 受付 13:00～13:30
- ② 授業（異年齢対話活動）
13:45～14:30
- ③ オープニング
14:40～14:45
- ④ 苫野先生とサークル対話
14:50～15:20
- ⑤ 講演 苫野一徳先生
15:30～16:30
- ⑥ クロージング
16:35～16:40